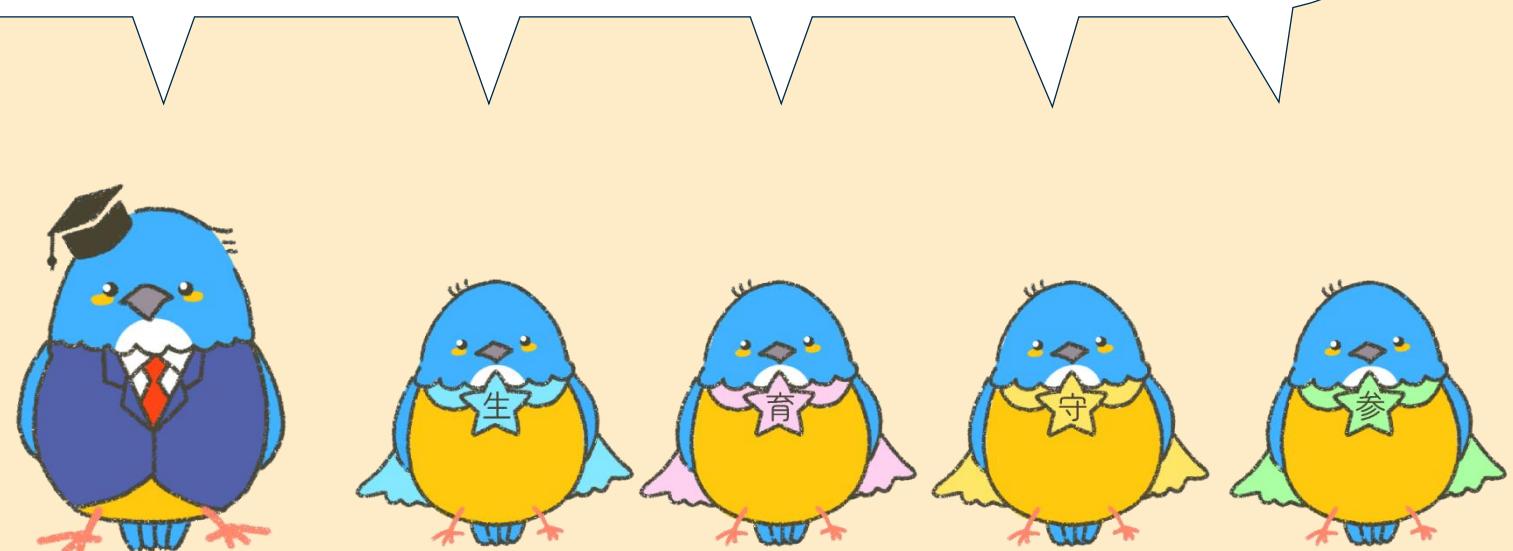


ユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業(CFCI)

実践自治体第1期の取組みと成果



まちだこどまち条例キャラクターカワセミ先生と“子どもの味方”カワセミレンジャー

ユニセフ日本型こどもにやさしいまちづくり事業について



町田市は、2021年12月に(公財)日本ユニセフ協会CFCI委員会と覚書を締結し、**ユニセフ日本型こどもにやさしいまちづくり事業**(以下、CFCI) **実践自治体として承認**されました。2021年から2024年までの第1期の成果が認められ、2024年12月には第2期の承認を受けています。これまでの取組みは先進事例として国内外から高い評価を受け、ユニセフ本部や首相も視察に訪れました。

第1期の主な対外的な成果

- 2022 小倉こども政策担当大臣(当時)が子どもセンターまあちで若者と意見交換を実施
- 2023
 - 町田市児童青少年課長が**子ども家庭庁こども・若者参画及び意見反映専門委員会委員**に就任
 - ニューヨークにある**ユニセフ本部**職員が**町田市を視察**
 - ユニセフHP**で**町田市の取組みを好事例**として紹介
- 2024
 - 岸田首相(当時)が子ども施策の先進事例として町田市を視察。若者と意見交換を実施
 - 香港ユニセフ協会がこどもにやさしいまち事業のモデル自治体として**町田市を視察**
 - 他自治体からの視察や子どもにやさしいまちづくりに関する取材が合わせて**約20件**



岸田前首相と若者の意見交換



香港ユニセフ協会が町田市を視察



CFCIチェックリストについて

CFCIの実践自治体は、世界共通の「CFCIチェックリストの原文」に沿って、各自治体独自の評価基準を設定したチェックリストを作成します。そして、そのチェックリストを基に計画を立案し、事業を実施し、評価作業を経て事業の見直しを行い、次年度の計画と実行につなげる**PDCAのサイクルを繰り返しながら、子どもの権利を実現するまちを目指します。**

日本型CFCIの特色として、**各自治体が自らチェックリストを作成し、自ら評価をすること**が挙げられます。チェックリストは統一の評価基準が定められたガイドラインではなく、各自治体が現状から改善を進めるためのものであるため、自治体間で評価基準も異なります。

町田市版CFCIチェックリスト2024年度版（一部抜粋）

原文(世界共通)

各自治体が評価基準(行動事例)を作成し、事業や取組を当てはめる

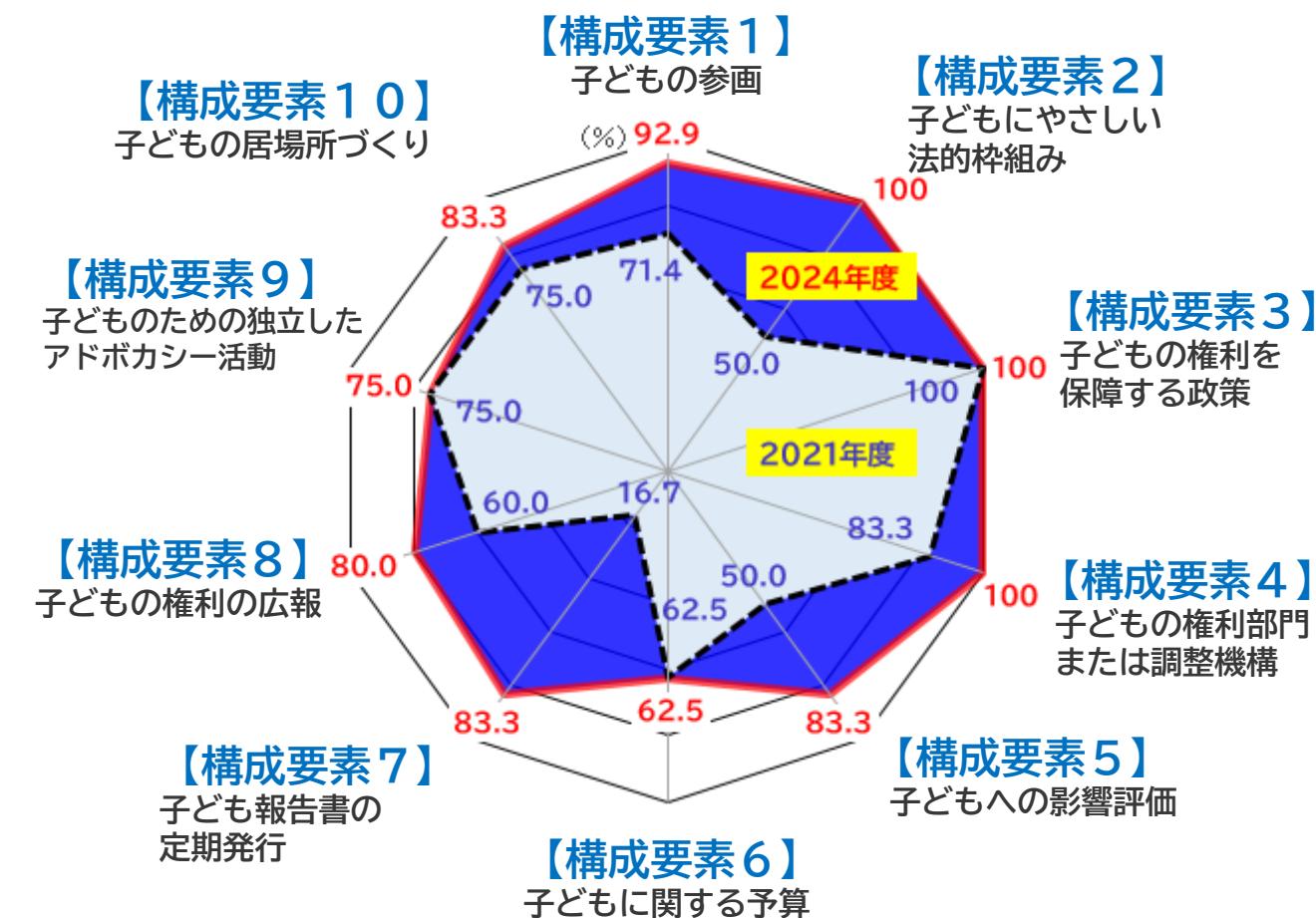
No.	日本型CFCIモデルチェックリスト（原文）	ループリック評価（行動事例）	事業・取組み	担当課
構成要素1 子ども問題への参画の仕組みのチェック				
1	<input type="checkbox"/> 行政活動全体にわたって、子どもの権利条約12条(子どもが意見を表す権利を持つこと)の原則が反映されるしくみを有しているか？	◎展開する事業全般にわたり、子どもが意見を表明し、反映させる仕組みが存在し、上位計画に位置付けられている。 ○展開する一部事業で、子どもが意見を表明し、反映させる仕組みが存在し、上位計画に位置付けられている。 ✗子どもが意見を表明し、反映させる仕組みが存在しない。	①市民参加型事業評価 ②子どもセンター事業（子ども委員会） ③子どもの参画推進事業 ④町田創造プロジェクト ⑤まちだ若者大作戦 ⑥高校生と町田市議会議員の意見交換会 ⑦交通安全ミーティング	①経営改革室 ②③④⑤ 児童青少年課 ⑥議会事務局 ⑦市民生活安全課

CFCI実践自治体第一期の自己評価結果



2021年度末時点と2024年度末時点の自己評価結果の比較

10項目中 **7**項目改善できました！



チェックリストの改善に向けた主な取り組み

構成要素1	子ども・若者が“やりたいこと”を自ら実現できるよう後押しする →まちだ若者大作戦を開始
構成要素2	子どもの権利を保障することはもちろんのこと、子どもの幸せの実現のために大人が連携して実践する →「町田市子どもにやさしいまち条例」を制定
構成要素4 構成要素5 構成要素7 構成要素8	「子どもの生活に関する実態や子どもの権利に関する実態・意識の調査を行い →「町田市子どもマスタートップラン25-34」策定のためのアンケート調査報告書を作成
構成要素10	子ども政策の主管ではない部署が子どものニーズを取り入れたみんなの居場所として →忠生スポーツ公園の整備 ハード・運用面に子どもの声を取り入れた子どもの居場所として →小山田子どもクラブ「ゆめいく」開所

構成要素1 子どもの参画の改善事例:まちだ若者大作戦の実施

若者の意見の聴取、反映に留まらず、**若者が“やりたいこと”を自らの力で実現できるように**事業PRや補助金の交付、仲間づくりなどを**市が後押しする**「まちだ若者大作戦」を2023年5月に開始し、2024年3月時点で18事業が実現しました。

コンセプト

「子どもにやさしいまちはだれにとってもやさしいまち」の実現に向け、子ども・若者自らの力で“やりたいこと”を成し遂げよう！

主に市がサポートしていること

- 町田市の広報やHPなどを活用して、活動をPRします。
- 考えたプランを実現できるようにするため、市の職員が企画書と一緒に考えます。
- まちだ若者大作戦として採択された事業は、プランに応じた補助金を支給します。

①やりたいこと実現プラン

1件につき、上限10万円の補助金が交付されます。

②まちづくりプラン

行政課題の解決につながると市に賛同された企画です。1件につき、上限50万円の補助金が交付されます。

企画の審査も若者のみで実施

募集要項や審査方法を若者と市と一緒に検討しています。



若者による実行委員会が作成



子どもの参画のポイント: まちだ若者大作戦で実現したプラン

市役所の全庁横断的な体制による後押しだけではなく、**地域の大人や民間事業者、大学など様々な大人の尽力**により**若者が“やりたいこと”が実現**しました。

Music at 四季彩の杜西園「ムジカ」

高校生や大学生の若者を集めて野外で音楽フェスを開催



公園管理者の協力で野外での音出しが可能に



子どもセンターの機材貸し出し

広報まちだジャック計画

「広報まちだ」に若者が書いた記事を掲載



広報課やデザイン業者と企画の相談



まちだ救命フェスティバル

AEDや心肺蘇生法などを学べるイベントを実施



民間事業者や地域団体による催し

構成要素2 子どもにやさしい法的枠組み改善事例:町田市子どもにやさしいまち条例の制定

今まで「子どもにやさしいまち」を目指していた町田市の取組を継承しつつ、さらに推進するために、2023年12月に「町田市子どもにやさしいまち条例」を制定しました。本条例は**4つの子どもの権利**と、**それを守るために大人がやるべきことを定めています。**

町田市子どもにやさしいまち条例

略して

まちだコドマチ条例



ルール

条例案の策定過程では、大人にも子どもにも多くの皆さんに意見を聴きながらまとめました



子ども参画ミーティングで条例案に子どもの意見を反映



「まちだコドマチ条例(ルール)」という呼びやすい条例の名称を決定



対象年齢ごとにわかりやすい
リーフレットを作成

子どもにやさしい法的枠組みのポイント:コドマチフェスティバルの実施

2024年5月5日、「まちだコドマチ条例」施行に合わせて周知、啓発イベントを実施しました。このイベントでは、警察署や公園部局の協力の他、ボランティアの方々などの支援を受けることで、子どもたちによる企画が実現しました。これは、市民、団体など**子どものために大人ができるることを実行するという条例の趣旨を体現した事例**となりました。

町田市



公園部局の協力による街区公園の使用
ボランティアによるブース運営

スポーツチーム



地元プロフットサルチームによる体験会

子ども



子ども企画による市長とクイズ大会

構成要素10 子どもの居場所改善事例:子どもたちが選べる居場所の整備



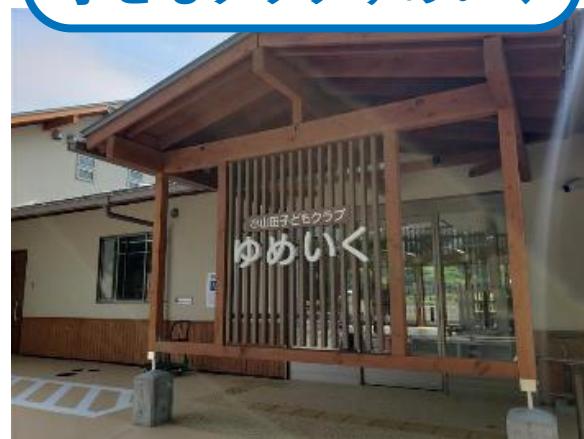
町田市では、**屋内や屋外で子どもが自ら自由に選び、過ごせる居場所づくりを推進しています。**CFCI実践自治体になる以前から、子どもセンターや子どもクラブといった児童館や、公園の一部を利用して「自分の責任で自由に遊ぶ」ことができる冒険遊び場など、居場所を整備してきました。

CFCI実践自治体第1期では、2023年1月に松葉谷戸冒険遊び場を開設し、同年年7月に小山田子どもクラブ「ゆめいく」が開館、同年9月には忠生スポーツ公園を整備しました。

松葉谷戸冒険遊び場



子どもクラブゆめいく



忠生スポーツ公園



子どもの居場所づくりのポイント:忠生スポーツ公園の整備

子ども政策の所管ではない部署が、子どもが自由な発想で気持ちよく遊べるよう、衛生・管理が行き届いた公園を2023年9月に整備しました。



3人制のバスケットボールコートや
テニスの壁打ち場



大人数でも同時に遊べる大型遊具



長さにもこだわった質の高い芝生

子どもにやさしいまちで

いいこと
ふくらむ
まちだ

